

ごあいさつ

2026年度に10周年を迎える「Diversity on the Arts Project」(通称:DOOR)は、「ケア×アート」をテーマに、「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクトです。講師として、現代の社会に生きづらさを感じている当事者、社会との関わりを持ち、表現を行うアーティスト、現代の福祉をより広い視野で捉え直す多様な分野の専門家を迎えます。ケアとアートがしみあうフィールドをお互いの作用において拡張しながら、体系的かつ東京藝大らしいカリキュラムを展開していきます。



Diversity on the
Arts Project

DOORディレクター 東京藝術大学長

日比野克彦



全国から
オンラインで受講可能!

DOOR
7つの
魅力

オンライン受講のみでも
履修証明書の
取得可能

1

藝大生と
一緒に学ぶ
講義と演習

2

アーティストや多様な福祉の
実践者、障がいのある当事者
を含む30名を超える講師陣

3

ワークショップ
メイキング、学外での
リサーチや演習、
アートプロジェクト
への参加などあり

4

DOOR eアーカイブ
ラーニングで
過去の講義映像を
約70時間視聴可能

5

東京藝術大学
付属図書館が
1年間利用可能

6

世代、職業など
背景の異なる受講生
との出会いから
生まれるネットワーク

7

2024年度修了生

受講生の声

黒田 詢子 さん
公務員
神奈川県在住



「アートの視点を持つと豊かさへの
アンテナが高くなります」

DOORで学んだことは仕事にも活かすことができると感じています。福祉の仕事をしていると、どうしても足りないものに注目しがちですが、アートの視点を持つと豊かさへのアンテナが高くなります。直接アートとは関係ない仕事をしていても、アートの視点を思い出すことで、偏見や閉鎖的な見方を揺さぶることになるのではないのでしょうか。まず私にできることは、支援、コミュニケーションを、アートのように、楽しんで喜びをもってやってみることなのかもしれないと思いました。

高井 昌弘 さん
ソーシャルワーカー
静岡県在住



「これからの道筋を照らして
もらえたように感じています」

仕事との両立ができるのか...と不安もありましたが、何より周りの仲間の応援が力になりました。「新しい価値観で、障がいのある方の力を引き出したり、支援者に気づきを与えることができるなら、福祉現場にフィードバックしてほしい!」と、DOORに共感してくれる仲間が背中を押してくれた感じです。これまでの経験を、これからの活かすためのハブのようにDOORを考えていましたが、思い切って受講したことで、これからの道筋を照らしてもらえたように感じています。

吉岡 律子 さん
アートディレクター
香川県在住



「新たな発想も生まれるのでは
ないかと考え、受講を決めました」

お出かけ好きの母が病院から出られずに悲しんでいた姿が忘れられず、同じように自由に外へ行けない方に向けた出張型美術館を始めたいと思っていました。とはいえ、福祉に関する知識のない自分が、想いだけで行動してしまうと、相手を傷つけたり邪魔をしたりと、不利益を与えかねません。自己満足にならないためにも知識が欲しいと考えていたところDOORを知り、新たな発想も生まれるのではないかと考え、受講を決めました。受講する中で抱えている不安も解消されたと思います。

授業概要

必修科目(50%以上の出席)、選択科目・DOOR特講・eアーカイブラーニングを組み合わせて年間60時間以上の受講と修了レポートの提出で履修証明書を取得可能。

対面
授業



オンライン
授業



対面授業

オンライン授業

必修科目 下記の2科目の履修が必須(取得時間数:22.5時間×2 合計45時間)

期間:4月~翌1月

ダイバーシティ実践論



生きづらさを抱える当事者や、当事者と関わりながら活動を行っている実践者・表現者との対話や、現代の福祉をより広い視点で捉え直す様々な領域の専門家を講師に迎えて、オムニバス形式の講義を行う。これからの社会で創造されるべき共生社会を考察し、実践につながる思考を編んでいくことを目指す。

2025年5月12日(月)

ダイバーシティ実践論

<第3回>

「水際立つ」

講師:五十嵐 晴美氏(アーティスト)

曜日 月曜日
時間 18:20-19:50

回数 15回
場所 オンライン

ケア原論



福祉の歴史やケアの基礎的な考えを知り、わたしたちを取り巻く環境が抱える問題について理解を深める。また、ケア・アートの両領域における創造的な取り組みを参照することで、現代のケアとアートの接点について考える。アートを介した福祉をより多角的な視点で捉えてゆくことを目的とする。

2025年6月9日(月)

ケア原論

<第1・2回>

「イントロダクション/ケアの目的論」

講師:飯田大輔氏(介護福祉士/社会福祉法人福祉楽団 理事長)

曜日 月曜日
時間 18:20-19:50

回数 15回
場所 オンライン

選択科目 下記の6科目から1つを選択(取得時間数:22.5時間) ●定員あり ●抽選制 ●任意で履修

期間:5月~12月

プログラム実践演習



多様な人々とともに過ごす場をつくることを目指し、作品・ワークショップ等の制作や実践を行う。また、社会の中で見過ごされがちな事象に目を向けてきたアーティストの眼差しに触れ、学びを深める。この授業では、履修者が授業に主体的・積極的に取り組むことを期待する。



曜日 土曜日or日曜日

回数 7回+課外活動

場所 東京藝術大学+学外

ケア×フィールドワーク実践演習



上野公園周辺の地域のフィールドワークを行い、地域が抱える課題等を多角的にリサーチし、ケアとアートの接点を探る。その過程で、進捗共有や成果発表の場を重ねながら、ケアや社会貢献の活動につながる企画・制作をグループで協働して立案し、アートを手立てとし、社会との架け橋を創る。



曜日 土曜日or日曜日

回数 6回+課外活動

場所 東京藝術大学+学外

ドキュメンタリー映像演習



映像制作・ドキュメンタリーの技法を基礎から学び、テーマに沿ってグループで映像制作を行う。制作プロセスを介し、映像のリテラシーや多様な人々との関わり方、振る舞い方をとらえることを目指す。また、インタビュー撮影におけるインタビューとの対話もケアの一環と考え、その実践方法を学ぶ。



曜日 土曜日or日曜日

回数 9回+課外活動

場所 東京藝術大学+学外

ARTs × SDGsプラクティス



「SDGsとアート」をテーマに扱う授業。SDGsが掲げる持続可能な社会を実現するうえでの課題を見つけ出し、創造的な解決策をアートの可能性を交えながら思考していく。SDGsをより多角的に、より深く知するために、様々な活動をしている実践者を講師に招き、共に考えていく。



曜日 火曜日

回数 7回+制作レクチャー6回

場所 オンライン

ケア×ソーシャリー・エンゲイジド・アート実践論



地域社会や住民とともに制作や活動を実施するソーシャリー・エンゲイジド・アート(SEA)について、日本のアートプロジェクトの事例にも触れつつ、その歴史を紐解く。また、ケアと関わる深い事例を掘り下げながら、福祉施設や地域におけるアートを介したコミュニケーションについて探求する。



曜日 土曜日 or 日曜日

回数 7回

場所 オンライン

人間形成学総論



この授業では、発達、思考、ことば、対話といったテーマを探求し、わたしたちの人間形成に深く関わる「学び」と「教育」への理解を深めていくことを目指す。その過程で、「人間とはなにか?」について、履修者が自分らしい視点を見出し、自己理解と他者理解をより深く育むことを期待する。



曜日 金曜日

回数 8回

場所 オンライン

DOOR特講

取得時間数:3~5時間×授業数
●全員受講可 ●任意で履修(年度ごとに変更あり)

DOORでの学びを広げるための不定期に開催される授業。東京藝大の施設を利用した実技的な演習やDOORの学びから生まれたテーマをより深める講義などを行う。

事例

ワークショップ・ブレインストーミング、クロッキー、ワークショップメイキング、「Dance well」ワークショップ、ストーリーテリング他



DOOR eアーカイブラーニング

約70時間視聴可能 ●全員視聴可 ●任意で視聴
●最大45時間分を取得時間に加算可能

過去の講義映像の視聴が可能。ケアとアートに関する知識が詰まった講義アーカイブを見ることで知見を深めることができる。

講師

広井良典(京都大学こころの未来研究センター教授)
瀬尾夏美(アーティスト/詩人/NOOK代表理事)
山本昌子(ACHAプロジェクト代表) 他
※肩書は登壇時の内容を記載



【スケジュール】

		必修科目		選択科目						1つ6冊	DOOR eアーカイブラーニング
4月	ガイダンス	ダイバーシティ実践論	ケア原論							DOOR特講	
5月											
6月											
7月											
8月											
9月											
10月											
11月											
12月											
1月	修了レポート提出										
2月											
3月	修了式										
60時間以上の受講で履修証明書を取得		2科目の履修が必須		任意で履修 6科目から1つを選択 各授業定員があるため抽選を行う						任意で履修	任意で視聴

【履修の例】

対面授業を中心に学習したい

Aさん



ダイバーシティ実践論	22.5h
ケア原論	22.5h
プログラム実践演習	22.5h
DOOR 特講	10h
合計	77.5h

オンライン授業を中心に学習したい

Bさん



ダイバーシティ実践論	22.5h
ケア原論	22.5h
人間形成学総論	22.5h
DOOR eアーカイブラーニング	45h
合計	112.5h

修了後の活動イメージ

DOORで得た知識や経験を活かしながら修了後も続くDOOR受講生のネットワーク



様々なアートプロジェクトを担うスタッフやアーティスト、サポーターとして活動を行う



社会福祉施設などの職員として働いたり、自身の職場や活動に活かす



アートを介して多様な人々が共生できる社会環境を創造する活動を展開する

受講生募集概要

募集人数

120名

※応募者多数の場合は書類審査を実施します

受講料

400,000円

検定料:なし

募集対象

以下の条件を満たす者

- 高等学校卒業以上の学歴を有する者、または同等以上の学力があると大学が認めた者。
- 外国人志願者は、授業履修に支障のない日本語能力があること。
- メール送受信が可能で、オンラインの受講環境が整っていること。

応募期間

2026年
1月5日(月)14:00～
2月13日(金)14:00

在籍期間

1年間
2026年4月1日～
2027年3月31日
受講開始日: 4月12日(日)

応募方法

WEB応募

※ 郵便受付・
持ち込み不可

教育訓練給付制度

本プログラムは、厚生労働省 教育訓練給付対象「特定一般教育訓練」の講座に指定されています。特定一般教育訓練の対象者は、受講料の40%の給付金が支給されます。受講開始までに受講者本人によるハローワーク等での事前申請が必要となりますので、支給条件・手続きの詳細は厚生労働省のWEBサイトをご確認ください。



学生対象 受講料減免

他の教育機関に在籍する学生が同時に本プログラムを受講する場合に受講料を一部減免します。対象となる要件については、募集要項をご確認ください。減免金額:10万円



応募までの流れ

STEP

1 募集要項の取得

募集要項を
WEBサイトから
ダウンロード



藝大DOOR | Q



※ DOORが考えるダイバーシティについては、書籍『ケアとアートの教室』をご参考ください。

STEP

2 提出物の作成

テーマに沿って
小論文を書く

課題(小論文)

「あなたが実現したい
ダイバーシティ」
について自由に論じなさい。

A4サイズ1枚にまとめ、
必ず氏名を記入してください。

※ 詳細は募集要項をご確認ください。

STEP

3 応募・書類提出

WEBサイト募集ページ内
「WEB応募ページ」より
応募・書類提出 PDF形式

受付期間

2026年
1月5日(月)14:00～
2月13日(金)14:00

受講までの流れ

2026年 2月

教育訓練給付制度を申請される場合は、支給条件・手続きの詳細を、お早めに居住地所管のハローワークでご確認ください

2026年 3月

受講の可否及び受講手続きの詳細について大学から3月22日(日)までにメールで通知します
※ 応募者多数の場合は書類審査を実施

2026年 4月上旬

受講料の振り込み
オンラインでガイダンスを開催
4月12日(日)
※ 後日視聴可能

※WEBサイトに掲載している募集要項・応募方法の詳細を必ずご確認の上、ご応募ください。



オンライン
説明会動画

DOORでの受講をイメージできるように、各授業の詳細や1年の流れを映像で説明します。また、受講しての感想や体験談を現役受講生によるトークセッションを通して紹介します。

募集ページにて公開中 無料

視聴期限 2026年 2月13日(金)まで

オンライン 公開講座

次年度の受講を検討している方を対象に、DOORでの学びの雰囲気などが体験できるオンライン公開講座を開催します。ぜひご参加ください。

2026年

1月26日(月)

定員

300名

概要紹介 18:00～18:20

特別講義 18:20～19:50

先着順 ※要事前申込

詳細・お申込・お問い合わせは、DOOR プロジェクト
WEBサイトをご覧ください。http://door.geidai.ac.jp/info/

参加費
無料



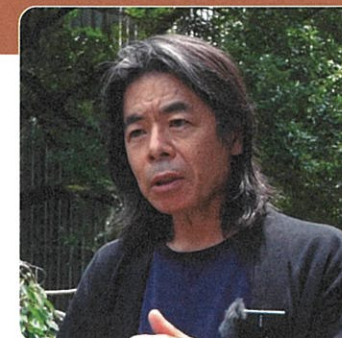
「つながりがひらかれるって、 どんな感じ？」

ケアは、人間関係や社会を支える根源的な営みであり、他者の声を聞き取り、応答し、関係を築き直す力を持ちます。今回は、地域や集団に向けてどのようなケアが実践され、そこにアートがどう交差しているのかに焦点を当て、アメリカ、メキシコでの地域コミュニティでの活動例や、日本の事例を紹介しながら、心理的安全性・表現・芸術が結びつき、セラピューティックに機能するプロセスを見ていきます。具体的な文化実践を通して、社会のレジリエンスをどのように強めていけるのかを皆さんと共に考えてみたいと思います。

※ 公開する講義は必修科目「ダイバーシティ実践論」となります。



講師 西原 珉
キュレーター・心理療法士



聞き手 日比野 克彦
東京藝術大学長

90年代の現代美術シーンで活動後、渡米。ロサンゼルスでソーシャルワーカー兼臨床心理療法士として働く。心理療法を行う傍ら、シニア施設、DVシェルター、コミュニティなどでアートを用いたプログラムを実施。2018年から日本に拠点を移し、つくり手のための相談と心理カウンセリングのほか、セラピューティックなワークショップの実践を通してコミュニティの強化を考えている。2024年4月より東京藝術大学先端芸術表現科准教授、秋田市文化創造館館長。

Q&A

Q. 履修証明制度とはなんですか？

A. 文部科学省による「履修証明制度」とは、大学がより積極的な社会貢献を促進するため、社会人を対象とした学習プログラム(履修証明プログラム)を開設し、その修了者に対して法に基づき履修証明書(Certificate)を交付できる制度です。

Q. 授業が行われる場所はどこですか？

A. 講義はオンラインで行い、対面での演習は東京藝術大学、学外の施設などで実施します。

Q. 福祉、アートに関連する経験や実績、技術等がなくても受講できますか？

A. 経験がなくても受講可能です。是非お気軽にご参加ください。

Q. 授業を受けるにあたってパソコンなどの準備は必要ですか？

A. 授業はオンラインでも行いますので、パソコンをご準備ください。演習も一部オンラインを使う場合があります。オンラインの授業は、Zoom(Web会議用アプリ)で行います。連絡は主にメールやeアーカイブリングの掲示板機能を使用します。通信機器の設定や通信環境のサポートはありません。

Q. オンラインのみの受講で修了できますか？

A. 修了できます。オンライン授業とeアーカイブリングの視聴を組み合わせると60時間以上の受講が必要です。「履修の例: Bさんの場合」をご参考ください。

Q. オンライン講義は録画されたものを受講するのですか？

A. リアルタイムでの講義を、オンライン上で受講いただけます。取得時間にはなりませんが、後日視聴も可能です。

東京藝術大学

Diversity on the
Arts Project



お問い合わせ

Diversity on the Arts Project (通称: DOOR)
MAIL | info-door@ml.geidai.ac.jp
WEBサイト | http://door.geidai.ac.jp

藝大DOOR | Q

